



▲取材時に担当者が着ける腕章

広報「つるおか」 3000号

つるおかのあゆみ
3000号のあゆみ

平成17年10月、鶴岡市・藤島町・羽黒町・櫛引町・朝日村・温海町が合併し、新「鶴岡市」が誕生。同時に創刊した広報「つるおか」は、18年目の今年3月で、3000号の節目を迎えました。

今回の特集では、これまでの広報の歩みを振り返るとともに、市民の皆さんと行政等をつなぐ広報紙の制作過程や、その役割を果たすために取り組んでいることを紹介します。

◆問合せ 本所総務課広報広聴係
☎ 35・1117

被写体が大きく見えるように
題字の調整も



平成17年（2005）11月
～平成25年（2013）3月



▲特集『文化の継承』は2年間・22回にわたって連載

旧1市4町1村の合併で
新たに生まれた広報「つるおか」



平成17年（2005）10月《第1号》

当時の編集担当者
と振り返る
3000号のあゆみ

各地域に関連する記事を、バランス良く取り上げるよう心掛けました。

各地域で受け継がれている伝統・文化を知ってもらえるように、平成20年1月から毎月、特集『文化の継承』を掲載しました。各地域の方々に参加していただく座談会形式の記事でした。

また表紙も、「伝統文化」「人の表情」などのテーマを年ごとに決め、撮影に取り組んでいました。



創刊号の発行に向けて、合併市町村の広報担当者が協力して、統合の準備を進めました。

統合後の広報紙では、各地域を知っていただくことが大きなテーマでした。お知らせ記事の見出しに地域名を入れるなど、見慣れない地名もどこの地域か分かるように工夫しました。

表紙は月山8合目への途上の眺望です。より良い構図を模索して撮影しました。

当時の担当者の声

こんな一瞬、あつたけの 表紙ギャラリー

表紙は広報紙の“顔”です。表紙の写真は、季節の行事や特集に合わせた内容としています。歴代の編集担当者に、思い入れのある表紙のエピソードを聞きました。



山五十川歌舞伎の支度を写したこの表紙は、「山形県広報コンクール」で特選に選ばれました。担当者3人で撮影に臨みました。平成26年(2014)1月号《190号》

実物の火縄銃を使った砲術演武奉納を取材。安全な場所から、望遠レンズを使って発砲の瞬間を写しました。平成24年(2012)7月号《163号》



新聞の投書欄で、市民の方から「気持ち明るくなる」と褒めていただいた表紙です。あどけない表情が撮影できました。平成27年(2015)1月号《202号》



フルカラー化してから初めて紅葉を写した表紙です。イベント参加者の笑顔と相まって、印象に残っています。平成28年(2016)12月号《225号》



表紙を通年フルカラーに！ 鮮やかな四季をお届け



平成28年(2016)5月
～令和4年(2022)9月

市民モニターの声を聴き 表紙を含め全面リニューアル



平成25年(2013)4月
～平成28年(2016)4月

令和4年(2022)10月から現在のデザインに！
リニューアルについて5ページで紹介します

あ

ヒラギノUD明朝体

あ

ヒラギノUD角ゴシック体

▲広報「つるおか」で
使用するUDフォント



市民の皆さんから、広報を手にとって読んでもらいたい。広報の魅力を伝えるのが表紙の役割だと思っています。人物の表情や自然の美しさを表現するには、フルカラーの力が不可欠でした。それまで新年号のみだったフルカラー表紙を、1年を通じてお届けできるようになったことで、使える写真の幅がぐんと広がり、表紙の写真により強い印象を出すことができるようになりました。



月2回だった広報の発行を、お知らせ版と併せて月1回にしました。発行回数が減っても情報の質・量を落とさないように、お知らせ記事等の表記を整理するのに苦労しました。またUDフォント※の使用も開始しました。リニューアルに当たっては、市民の皆さんから広報モニターを募集し、相談に乗っていただきました。

※UD(ユニバーサルデザイン)フォント
高齢者や障害のある方等も読みやすく、誤読されにくいように作られた書体のこと

1 編集会議



次号の特集テーマや取材するイベント等を話し合います。表紙写真の撮影や「まちとぴ!」の取材・原稿作成は、各地域庁舎の広報担当も一緒に行っています。

2 取材



出来上がりをイメージし、構図や表情に気を付けて写真を撮影。記事で取り上げる人物へのインタビューも行います。

3 編集



パソコン上の編集ソフトで記事を作成。読みやすく興味を持ってもらえるように編集します。

4 校正



文章などに誤りがないか、広報担当と各担当課等で確認します。

5 印刷・製本



印刷業者にデータを入稿し、印刷へ。製本したものを配付します。

広報「つるおか」は、記事の企画、インタビュー・写真撮影から、レイアウト等の編集、文章校正まで、印刷製本以外の全ての工程を職員が担当しています。見やすいデザイン・読みやすい文章表現になるように工夫しています。その様子を写真で紹介します。

初公開!
広報が
できるまで

入稿後、すぐに
次の号の編集会議へ…

収録を担当しているお2人にお話を聞きました!

1ページずつ集中して読んでいます。間違わずに読み通せたときは達成感がありますね。

聞き取りやすいように、読む速度を一定にすることを心掛けて、ボイスレコーダーに録音しています。



さとう えみ
佐藤 絵美さん



なりた あい
成田 愛さん

「声の広報」は、広報の内容をCDまたはカセットテープに収録して、目の不自由な方へ提供する事業で、昭和56年から続けています。現在は、障害者支援オフィス「ひので」に委託し、収録を行っています。利用者からは、「毎月のイベントを知ることができてとても助かります」「ふるさとの話題が読まれるのが楽しみです」「たまに会

「声の広報」

目の不自由な方へ情報をお届けします

いに来る息子との、共通の話題になっています」など好評を頂いています。利用したい方は、本所福祉課 ☎ 35・1273 にお申込みください。



音声広報が収録されたCD等が自宅に届きます

約10年ぶりの紙面リニューアル

令和4年10月に広報紙のデザインを一新

広報「つるおか」は、幅広い年齢層に読んでもらえる広報を目指しています。表紙等を含めて、以下のリニューアルを行いました。

スマートフォン等の普及に併せ、詳しい情報を市ホームページ等のウェブ媒体と連携して確認できるように、2次元コードの掲載を増やしました。

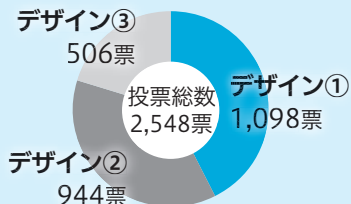
行間や文字サイズを調整し、読みやすく、疲れないようにしました。

人にスポットを当てた連載を開始するなど、興味を持ってもらえる読み物記事を充実しました。

◆表紙デザインアンケートの実施

リニューアルに際し、市LINE公式アカウントで表紙デザインのアンケートを実施。10代から80代までの広い年代から、計2,548票の投票がありました。

3つの候補の中から、投票数が最も多かった現在の表紙デザインが選ばれました。



鶴をイメージした
ロゴデザインに!



▲市内外で活躍中の方をインタビューで紹介します

イベント紹介やお知らせ記事のデザインもリニューアル!



▲市LINE公式アカウントで行ったアンケート

鶴岡の「いま」を伝えたい

これからの広報

◆市の広報の役割

市の広報には、主な役割が2つあります。1つが「市民の皆さんに市政の情報をお伝えすること。もう1つが「市の魅力を内外に発信すること」です。

デジタル化が進み、インターネットやSNSで情報を入手する機会が増えてきています。

本市でも、スマートフォン等で情報を取得できるよう、コミュニケーションアプリ「LINE」公式アカウントを開設するなど、多様な手段での情報発信に取り組んでいます。

◆紙の広報紙の意義

紙媒体としての広報紙には、優れた点がいくつもあります。

1冊の中に、そのとき皆さんに伝えたい情報がまとめられていること。手元に置いて何度も読み返せること。誰でも手に取ることができ、広い世代が読めること。また、デジタル化が進む中で、機器を持たない方や、操作が苦手な方等にも情報を届けることができま

す。

今まで広報紙を読んでもださっている方はもちろん、あまり手に取らない方にも情報をお届けしたいと考えています。今後も、より分かりやすい紙面づくりを進めていきます。

今も昔も変わらずに、情報をお届けするため、広報「つるおか」は時代に合わせ変化し続けていきます。

市LINE公式アカウント



市公式ツイッター



広報「つるおか」は
こちらでも
お読みいただけます



市ホームページ



電子書籍
ヤマガタ
イーブックス